

第85回 要害山ハイキング

第4支部 三共商事株式会社 小川秀一
平成29年12月23日(土)快晴

久しぶりにハイキング同好会へ参加した。と言うのも、このところ日程が合わず参加できずにいたが、年末になるに従い 嫁さんから「今年はあまり山に登れなかったわね」と、ぼやきが始まった。そう言えば、小生も最近受けた定期健診でメタボ悪化と運動不足を指摘されてしまった。そうだ、毎年12月23日の天皇誕生日は忘年ハイキングがある。早速、連絡を取ると「今年は楽なコースです」との話であった。体力に自信がなかったが、それであればと夫婦で参加することにした。

師走に入り寒暖の差が大きい毎日だが、この当日は青空が広がる暖かい朝を迎えた。高尾駅で中央線の小淵沢行に乗り換え待ちをしていると、ハイカーで込み合うホームで磯部さん、山本さん、原さんの奥様と合流する事になった。皆さんにお会いするのは年初の高尾山参拝以来である。それぞれ 트렌ディーな出で立ちだ。乗った車内は同じようにトレッキング・スタイルの中高年の人たちで混雑している。それぞれ赤、オレンジ、ブルーなどの装いでリュックを背負い、望遠レンズ付きの高級カメラを持って乗車してくる人も多い。ここからは各駅停車でどの駅もハイカー・グループが降りていく。われわれの目的地は3つ目の上野原駅である。

上野原駅に午前9時10分頃到着、そこで他の3名と合流。ここから20分ほどの新井までバスで移動する。そのバス停が実質的な登山出発点だ。上野原駅で出発までの時間、乗車して待っていたバスが定刻より早く出発してしまい、2名が乗り遅れるトラブルがあったのだが、10分遅れで次のバス(これが本来予定していたバス)が出たので助かった。

9時40分、それぞれにストレッチやら靴の紐を締めなおし、全員でいざ出発である。暖かい陽光を受け、山間のアスファルトの道を歩く。民家で視界を遮られていた道がひらけ、周囲の山々が見えてきた。前方の山の向こうにお椀を伏せたような形で、てっぺんに一本の木が植わった特徴ある山がある。これが今日登る「要害山(ようがいさん)」である。「Eカップですかね」乾さんから専門用語が飛び出す。皆さん見上げながらニコニコしている。そうなのです、この山は通称「おっばい山」と現地で呼ばれているそうなのである。

少し行くと要害山を示す小さな矢印が左の小路へ曲がるように示していた。しかし、まだ民家が点々と続いている。暖かい朝の陽ざしを受け、まだまだ長閑な山村の一部を歩いているにすぎないのだ。この山村の平らな部分は畑になっている。そんな一軒の民家の人が道まで出て来ていたので、先頭に行く磯部さんが道を訊いた。声を聴いて、家から奥さんも出て

きて親切に教えてくれた。「何かのグループなんですか？ 皆さんで山歩き、いいですね」。民家の奥さんはしきりに羨ましがっていた。「あら！ 蠟梅(ロウバイ)よ！」原さんの奥様が畑の畔に、早春を彩る蠟梅の黄色い花が咲いているのを見つけた。

10時10分、もう山道も緑の中にあった。山村と山岳地帯の境には山ノ神神社がある。立派な鳥居があり、由緒正しい神社の様だ。ここから本格的な山道となった。つづら折りの山道は急な所もある。枯葉が積み重なり、枯葉に埋まった道の端をうっかり道だと思って踏むとズボットはまり斜面へ滑落しそうになる。危ない。道の山側を歩き、出来るだけ枯葉の少ない地面を確認しながら歩くことにした。

10時26分、休憩所の見晴らし台に着いた。それほど見晴らしが良いわけではないので、一息ついてすぐ出発、最後の急坂を登ることとした。

11時、山頂に到着。やはり楽なコースであった。要害山は山城であるが、「大倉砦」として有名で、城郭マニアにとって一度は行ってみたい山城だそうだ。

織田信長以降の近世の城は、戦国の城から構造などが大きく進化してしまったが、本来敵をその地域に寄せ付けないために山城を造り、山の尾根道を分断する切岸(きりぎし:斜面を削った断崖)や堀切(ほりきり:地面を掘った空堀)などが造られていた。しかし、この山城を維持するための物資を運び上げるのも大変、水の確保も難しい。城主たちは普段は山麓に築かれた館で生活していたが、一朝事があると山城に籠って戦った。この要害山にはその跡が鮮明に残っているらしいのだ。

要害山の山頂には建物は残っていないが城郭跡だけに、かなり広い平坦な場所となっている。その中心である主郭跡にあの印象深い大木が植わっているのだ。秋葉大権現も祭られている。参拝し、ここで昼食である。磯部さんがリュックから道具を取り出し、お湯を沸かす準備をしている。思いおもいにシートに座り、昼食をいただいた。やはり、山頂で飲む紅茶は美味しい。ウイスキーを入れるとさらに旨い。磯部さん有難うございました。この山頂からは上野原駅のある南側がよく見渡せ、中央自動車道とその談合坂サービスエリアがよく見える。その向こうには富士山が見える。戦国時代の武将はこの武蔵野国、相模国、さらに甲斐国を見渡し、何を思ったであろうか？

11時30分、下山開始である。登りに比べて、やはり下りは楽だ。ただ、枯葉には注意を要する。20分ほどで民家のあるところまで一気に下る。帰りは北側の斜面をつづら折りに降りて行くのだが雪が残っていたり、凍結したりしていて寒い。溪流の音が聞こえてきた。これからは、トケツ沢の溪流に沿って整備された道路を下って行く。うららかな日差し、土塀の民家がほのぼのとした雰囲気山村である。

今回はかなり楽なコースだ。山道を下り、国道33号にぶつかった所に、停留所がある。半

日に一本あるか無いかの定期バスの運行であろう。しかし、皆さんの心掛けが良いのか、この定期バスの到着時間にぴったりとはまり、奇跡的に待ち時間なしにバスに乗る事が出来た。ただ、予定していたよりだいぶ早まっていた行程が更に早まることになった。相模湖駅前
で予定している宴会は14時半なのである。1時間半以上早い。

13時、忘年会会場の「角屋さん」には1時間半ほど開始時間を早めて貰い、ビールでの乾杯で忘年会は始まった。2時間、今年のハイキングの話で盛り上がりました。原さんの旦那さんと大根田さん、森山さんは、この忘年会からのご出席かと思っていたら、待ち切れずに大根田さんの御自宅で忘年会を始めていらっしゃったそうです。

さて、来年はメタボ解消のためにハイキング同好会には出来るだけ参加したいと思います。皆さんも、どうぞご参加ください。